

香川県訪問看護師クリニカルリーダー 活用の手引き

公益社団法人香川県看護協会
訪問看護推進委員会

香川県訪問看護クリニカルラダー作成の経緯

香川県では、近年新設する訪問看護ステーションが急増しました。今後は、“数の増加”だけでなく、今あるステーションが力をつけ、“質の向上”を図ることが重要になってくると考えます。しかし、小規模事業所が多いことや、管理者が訪問に出なければ経営に影響するなど、人材育成を各ステーションだけで行うことは非常に苦勞が多いと思われます。更に、訪問看護は1人で訪問するため、自分の行っている看護がこれでいいのか漠然とした不安を抱えることがあります。それは、訪問看護の実践においてどのような能力が必要なのか、自分は今どの段階にあるのかを明確に示すことができていないためだと思われます。そこで、訪問看護推進委員会では、訪問看護ステーションにおける看護師の実践能力を適正に評価し、必要な教育体制を整備することを目的に、クリニカルラダーの活用を検討してきました。

日本看護協会では、暮らしと医療を支える看護提供体制を構築するため、基盤となる看護実践能力の強化や働く場・働き方の多様化の理解と推進を目指し2016年「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」を公表しました。看護の核となる実践能力について4つの力で示しており、病院、施設、訪問看護ステーションなどあらゆる場で働く看護師が、同じ指標で人材育成を行うことができるものとなっています。これまでは、病院で経験のある看護師が訪問看護ステーションで働く場合、持っている実践能力を可視化できておらず、十分な教育支援がなされないまま訪問に出ることもありました。ラダーを活用することにより、病院と同じ指標を持つことができ、ステーションでの教育体制が明確になり、今後、香川県内共通のラダーも活用により、県内のどの事業所でも同じ指標で看護の実践能力の向上を目指すことができます。

今回の手引きでは、はじめてラダーを導入する事業所においても、スムーズに活用できることを目指して作成しました。是非活用していただければと思います。

令和4年3月

公益社団法人香川県看護協会
訪問看護推進委員会

目次

I. JNA クリニカルラダー（日本看護協会版クリニカルラダー）について	3
1. クリニカルラダーとは	3
2. JNA ラダー開発の経緯	3
3. JNA ラダーの特徴	3
II. 香川県訪問看護師クリニカルラダーについて	
1. 私たちの目指す姿	4
2. 香川県訪問看護師クリニカルラダーの構成と内容	4
3. 香川県訪問看護師クリニカルラダー評価表の特徴	5
III. 香川県訪問看護師クリニカルラダーの運用	
1. 運用の流れ	6
2. 評価表の使用方法	7
3. 教育計画の一例	7
（参 照） 事例を通しラダーレベルをイメージしてみましよう	8
（資料集） 様式1 香川県訪問看護師クリニカルラダー	13
様式2 香川県訪問看護師クリニカルラダー評価表、目標管理シート	
様式3 教育計画	
様式4 レベルⅠ 技術経験表	

I. JNAクリニカルラダー（日本看護協会版クリニカルラダー）について

1. クリニカルラダーとは

看護師の能力開発や評価を行うシステムである。

ラダーとは、「はしご」という意味があり、看護師としての能力を段階的に向上させていくことを目的としており、各病院等で独自のラダーが作られていた。

2. JNAラダー開発の経緯

医療の提供体制は、「地域完結型」に変化し、様々な場で看護が必要とされている。あらゆる施設や場で活動可能な看護師の育成・教育支援、継続性の強化のため、個々の看護師が所属する施設の枠にとどまらず、全国レベルで共通して活用可能な指標として2016年に開発された(図1)。

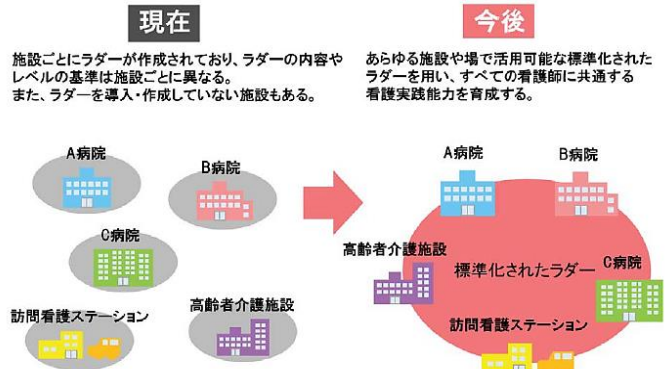


図1 看護師のクリニカルラダーの将来的な方向性のイメージ

3. JNAラダーの特徴(図2)

①看護実践の場や看護師の背景にかかわらず、すべての看護師に共通する看護実践能力の指標である。看護実践能力に焦点化しており、キャリアラダーの一部として活用する。

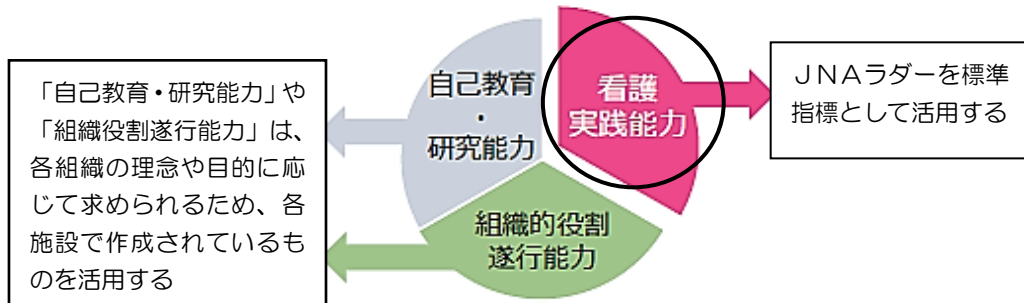


図2 キャリアラダー

②看護実践能力の構成は、「ニーズをとらえる力」「ケアする力」「協働する力」「意思決定を支える力」の4つの力としている。4つの力は密接に関連し、どの場においても発揮される。

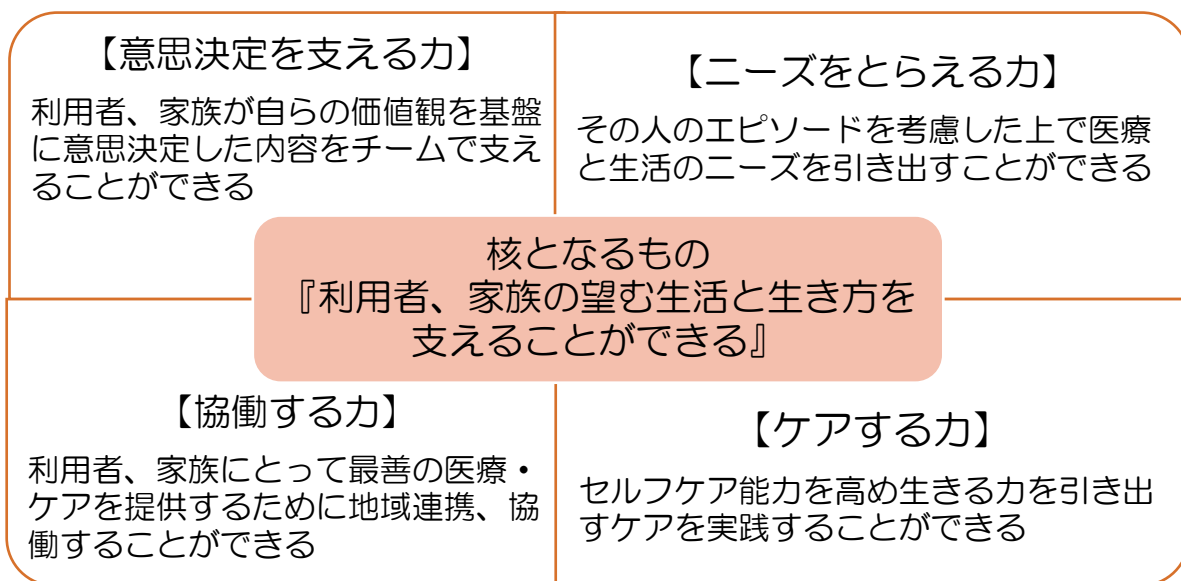


II. 香川県訪問看護師クリニカルラダーについて

1. 私たちの目指す姿

『訪問看護アクションプラン 2025』には、2025年に向けて訪問看護の質向上において、「健康の維持・回復、生活や穏やかな人生の最終段階を支える視点を持つ専門家の育成」が示されている。それに基づき、訪問看護推進委員会では、香川県の訪問看護師が目指す姿を検討した。

目標は、「利用者、家族の望む生活と生き方を支えることができる」とし、4つの力の習得を目指す姿として設定した。



2. 香川県訪問看護師クリニカルラダーの構成と内容（様式1）

- ①横軸は習熟度をレベルⅠからⅤの5段階で示している。
各レベルにレベル目標と行動目標がある。この内容はJNAラダーで示されており、変更できない。
- ②縦軸は看護実践能力を、「ニーズをとらえる力」「ケアする力」「協働する力」「意思決定を支える力」の4つの力で示している。
クリニカルラダーは実践能力に特化しているため、組織役割や研究能力等についての項目はない。

		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
実践能力	ニーズをとらえる力					
	ケアする力					
	協働する力					
	意思決定を支える力					

③4つの力毎に、各レベルのレベル目標、行動目標が示されている。

実践例は、香川県独自のものを作成しており、各事業所の特徴を考慮して、内容を追加することは可能である。

	レベルⅠ		レベルⅡ
レベルの定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する		
ケアする力	レベル目標	助言を得てケアの受け手や状況のニーズを捉える	
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・助言を受けながら受け手に必要な身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ・ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる 	
	実践例	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>初回アセスメント用紙にそって情報収集を行うことができる <input type="checkbox"/>助言を受けながら身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から情報収集とアセスメントができる <input type="checkbox"/>緊急性を捉えることができる 	

3. 香川県訪問看護師クリニカルラダー評価表の特徴 (様式2)

- 1) 訪問看護の実践能力(4つの力)の実践例について評価できる。
- 2) 評価基準は4段階とし、本人評価と他者評価、総合評価で構成される。
- 3) 4つの力毎にどのような学習項目が必要かを記載している。面接(目標面接または育成面接)時に必要な学習項目にチェックをし、管理者とともに学習支援策を抽出できる。
- 4) 目標管理と連動できる。
- 5) 教育計画作成に活用できる。


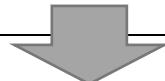

Ⅲ. 香川県訪問看護師クリニカルラダーの運用

訪問看護師クリニカルラダーは人材育成支援のためのツールであり、評価することだけが目的ではない。自己の課題を明確にし、必要な学習支援を行い個々が成長するためのツールとして活用してほしい。

1. 運用の流れ

対象者は基本全ての看護師とする

- ①4月に今年度の目標を設定する
- ②全職員がレベルⅠから始める
- ③5月に目標面接を行い、チャレンジレベルを決定し、年間の目標や学習支援策を検討する
- ④9月に中間評価（振り返り）を行う。必要時学習支援を行う
- ⑤最終評価を行い、レベル認定を行う

	運用の流れ	スタッフ	管理者
4月初め	①目標を設定する	①個人目標を設定する	①事業所の目標を設定しスタッフに周知する
4月末頃	②評価表：レベルⅠからスタート 	②評価表の本人評価を行い管理者に提出 ※初回評価時は、レベルⅠから自己が達成していると考えられるレベルまで全て本人評価を記入する	②本人評価の後、他者評価を行う ※初回面接時のみ、レベルⅠからの到達度を評価し、到達レベルの判断をする
5月	③目標面接 チャレンジレベルを決定する 	③スタッフ、管理者と目標面接を行う ・本人評価と他者評価の内容について話し合い、チャレンジレベルを決定する ・目標に向けた学習方法、支援策等について話し合う ・教育計画の作成	
9月	④中間評価 振り返りを記載し、対策の修正と学習支援を行う 	④目標到達の振り返りを行う	④必要時面接を行う
2月	⑤チャレンジレベルの最終評価 レベル認定	スタッフ、管理者と目標面接を行う ・本人評価と他者評価の内容について話し合い、チャレンジレベルの最終評価をし、レベル認定を行う	

2. 評価表の使用方法

① 評価について

- 評価表を用いて自己評価を行う
- 自己評価の後、他者評価を行う・・・事業所の状況に応じて他者評価者を決める
- 管理者と共に評価表を用いて面接をし、最終評価をする
- 評価は年2回（5月と2月）行う
- 中間評価は、目標管理の用紙で振り返りを記載し、必要時面接を行う
- 最終評価のレベル認定は、各項目で4、3がつく

② 学習支援について

- 目標面接を行い、必要とされる学習項目にチェックをし、学習支援方法を検討する
- 香川県訪問看護ステーション連絡協議会や訪問看護推進研修などを活用し、研修計画を立案する

3. 教育計画の一例（様式3）

●全職員研修

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			感染防止 研修会		認知症研 修		リスクマ ネジメン ト研修会	プライバ シー及び 個人情報	

●個別研修

Aさん レベル I				訪問看護 師養成講 習会					
Bさん レベル II					訪問看護 推進研修				
Cさん レベル III					訪問看護 推進研修				
Dさん レベル IV						訪問看護 推進研修			
Eさん レベル V						訪問看護 推進研修		訪問看護 ステーシ ョン連絡 協議会管 理者研修	

(参照)

事例を通してラダーレベルをイメージしてみ
ましょう

事例

高齢者の終末期の場面において、【ニーズをとらえる力】の実践場面を想定した。各レベルの目標、実践例の下に、事例の場面で看護師がどのように考え行動したかを記載している。看護師に求められる実践例がイメージできればと考える。

<ストーリー>

加藤先生から電話があり、「まるさん 92 歳が食事を食べなくなったので点滴を行って欲しい」という訪問依頼があった。

まるさんは、娘美智子さん夫婦と3人暮らし。

2か月くらい前より食欲低下があり、食べると嘔吐しほとんど食事を摂れていないとのこと。病院受診は拒否され、在宅医が点滴を行っていたが拒否するようになり、娘さんが困っている状況。



点滴はいや。
病院も行きたくない。

まるさん 92 歳
認知症症状あり



こんな状態で
看られるかしら…

娘 美智子さん



おそらく胃に
腫瘍があるの
だと思います

主治医 加藤先生

～【ニーズをとらえる力】の実践場面～

初回訪問、まるさんは嘔吐し食べておらず表情も厳しい。娘さんは本人が点滴を拒否しているためどうしたらいいのかわからず困っている。

●レベルⅠ Aさん

レベル目標	助言を得てケアの受け手や状況のニーズを捉える
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・助言を受けながら受け手に必要な身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ・ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる
実践例	<ul style="list-style-type: none"> □助言を受けながら利用者の病態を理解し、身体面の情報収集ができる □助言を受けながら利用者の精神面の情報収集ができる □助言を受けながら利用者の家族の状況、経済状況など社会的な背景について情報収集ができる □助言を受けながら利用者のスピリチュアルな苦痛の有無について情報収集ができる □家族との会話を通し利用者の体調、介護の状況について情報収集ができる □情報収集をした内容から優先順位や重要度を把握することができる

食べていないので状態が悪くなっている。先生の指示もあるし点滴をした方がいいけど・・・



食べられていないのでしんどいですね。点滴をすれば少し楽になるかもしれないので点滴をしませんか？

●レベルⅡ Bさん

レベル目標	ケアの受け手や状況のニーズを自ら捉えることができる
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立してケアの受け手に必要な身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ・得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる
実践例	<input type="checkbox"/> 生活歴に目を向けた情報収集ができる <input type="checkbox"/> 利用者、家族等の思いをとらえることができる <input type="checkbox"/> 利用者、家族等の情報からどのような課題があるのかをとらえることができる

ご本人が点滴を嫌がっているので無理にはできない。娘さんは食べていないことを心配しているが、元気な時はどんな体型でどれくらい食べていたんだろう。

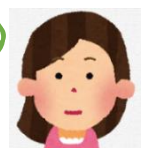


もともとまるさんはどのような体型だったんですか？食べる量は以前と比べどれくらい減ったんでしょうか？

●レベルⅢ Cさん

レベル目標	ケアの受け手や状況の特性をふまえたニーズをとらえる
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの受け手に必要な身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から個別性をふまえ必要な情報収集ができる ・得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる
実践例	<input type="checkbox"/> 個別性を踏まえ、利用者や家族、多職種から情報収集を行うことができる <input type="checkbox"/> 利用者、家族等の状況に合わせ、情報収集の手段を検討することができる <input type="checkbox"/> 利用者、家族等の身体状況や、日常生活の変化にきづくことができる

点滴は必要な状態だが認知症もあり、本人が納得していない。娘さんは点滴を希望しているがまるさんが拒否しているので実施は難しい。今の状態ならすぐに点滴をしなくても状態は維持できると思う。



点滴はした方がいいですが、ご本人が納得していないので、まずは食べられるものを一緒に考えていきませんか？まるさんが食べたり飲んだりしたものを書いてみましょう。

●レベルⅣ Dさん

レベル目標	ケアの受け手や状況を統合しニーズをとらえる
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予測的な状況判断のもと身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ・ 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる
実践例	<ul style="list-style-type: none"> □ 身体状況や疾患の予後など予測的な視点で情報収集を行うことができる □ 利用者、家族の思いを傾聴し、人生の希望を共通理解することができる

92歳という年齢と数ヶ月食べていないことを考えると終末期だと思う。点滴を拒否し何もしなければ悪くなるのは早い。娘さんはどんな在宅療養を望んでいるんだろう。娘さんの思いをしっかりきこう。



まるさんは点滴が嫌いなんですね。娘さんは今の状態や点滴についてどう思われますか？

弱っていくのを見るのが辛いです。本当は病院に行った方がいいと思うけど絶対に行かないし。病院に行かないならせめて点滴くらいはした方がいいと思うんです。本人は病院に連れて行かれると思って怒っているんだと思います。



そうですね。点滴をしてあげたいんですね。ただ、今すぐには難しそうなので、少しずつでも好きな物を食べてもらったらどうでしょうか。まるさんには点滴を納得してもらえよう話していきますね。

点滴をしてあげたいというのは、お母さんに何かしてあげたいという気持ちかな。点滴はコミュニケーションがとれてからでもいい。



そうですね。点滴をしてあげたいんですね。ただ、今すぐには難しそうなので、少しずつでも好きな物を食べてもらったらどうでしょうか。まるさんには点滴を納得してもらえよう話していきますね。

●レベルⅤ Eさん

レベル目標	ケアの受け手や状況の関連や意味をふまえニーズをとらえる
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる ・ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
実践例	<input type="checkbox"/> 困難な事例に対し、生活状況、生活歴、家族の状況などを意図的に訊くことで多様なニーズを引き出すことができる <input type="checkbox"/> 価値観に応じた判断ができる

終末期であり点滴をしても状態の変化は望めない。これからのことについて娘さん自身が考えていけるように意図的に訊いていこう



まるさんは点滴や入院が嫌いなんです。お母さんはどんなお母さんだったんですか？

母は自分の好きなことをして思う通りに生きてきた人ですね。だからこのまま私が家でみてあげたいと思っているんです。でも今のままでは少し不安です。



家で看たいという意思ははっきりしている。看取りに向けた支援体制を整えていく必要がある



お母さんのことを一番に考えて家で看てあげているんですね。でも1人で看るのは大変だと思います。ご主人やその他のご家族は家で看ていることについてどのように思われていますか？



主人には迷惑を掛けていますね。今のところ何も言いませんが、一度ちゃんと話しておかないといけませんね。



そうですね。このまま家で看取することもできるし、入院をお願いすることもできます。今の娘さんの思いとしては、このまま自宅で看ていくということで、先生やケアマネジャーにお伝えしておきますね。

資料集

様式 1 : 香川県訪問看護師クリニカルラダー

様式 2 : 香川県訪問看護師クリニカルラダー評価表、
目標管理シート

様式 3 : 教育計画

様式 4 : レベル I 技術経験表